

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来／スポーツトレーナー 学科  
SMIV／AT・MTⅢ 専攻

授業科目 (科目ID)	AT対策 I 19t401 / 19t306		担当教員  (実務経験)	池田 祐真  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> アスレティックトレーナー、理学療法士	
対象年次・学期	4年／3年・通年		必修・選択区分	必修・選択(SMIV、MTⅢ)	単位数 4単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	30	時間数 60時間
授業目的	公認アスレティックトレーナー検定合格に向け、過去の出題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題にも柔軟に対応できる能力を身につける。				
到達目標	AT理論試験合格。				
テキスト・ 参考図書等	全公認ATテキスト				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	定期試験、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	40%			
履修上の 留意事項	公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト、参考資料などを中心に、要点説明を行っていきます。また、実際の検定を想定した授業形式で行っていきます。検定合格に近づけるように、みなさんの積極的な取り組み方と継続的な努力に期待しています。早期よりクラス一丸となり、検定に向けてお互い切磋琢磨し頑張ってください！！				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション、授業について	授業内容説明、諸注意等		
	2	検査・測定と評価	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	3	検査・測定と評価	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	4	検査・測定と評価	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	5	検査・測定と評価	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	6	検査・測定と評価	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	7	検査・測定と評価	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	8	検査・測定と評価	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	9	検査・測定と評価	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	10	検査・測定と評価	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	11	検査・測定と評価	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	12	検査・測定と評価	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	13	検査・測定と評価	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
	14	検査・測定と評価	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト		
15	検定試験対策模擬試験	模擬試験の実施			

16	スポーツ科学	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト
17	スポーツ科学	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト
18	スポーツ科学	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト
19	スポーツ科学	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト
20	スポーツ科学	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト
21	スポーツ科学	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト
22	スポーツ科学	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト
23	スポーツ科学	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト
24	スポーツ科学	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト
25	スポーツ科学	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト
26	スポーツ科学	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト
27	スポーツ科学	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト
28	スポーツ科学	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト
29	スポーツ科学	出題傾向分析、重要ポイント、確認テスト
30	検定試験対策模擬試験	模擬試験の実施

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来／スポーツトレーナー 学科  
SMIV／AT・MTⅢ 専攻

授業科目 (科目ID)	AT対策Ⅱ 19t402 / 19t307		担当教員  (実務経験)	橋場 晋也  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> アスレティックトレーナー、鍼灸師	
対象年次・学期	4年／3年・通年		必修・選択区分	必修・選択(SMIV・MTⅢ)	単位数 4単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	30	時間数 60時間
授業目的	公認アスレティックトレーナー検定試験合格に向け、過去の問題傾向を十分考慮し、幅広い知識の習得を目指すと共に、あらゆる問題にも柔軟に対応し、解答することが出来る。				
到達目標	AT検定試験合格				
テキスト・ 参考図書等	全AT専門科目テキスト				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	模擬試験・試験結果、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	40%			
履修上の 留意事項	特になし。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション、AT取得までの道のり	AT試験に関する説明、今後の勉強方針		
	2	第1回客観式理論試験模試	模擬試験の実施。(50問模試)		
	3	スポーツ外傷・障害の基礎 1	出題傾向・重要ポイントの説明。		
	4	スポーツ外傷・障害の基礎 2	出題傾向・重要ポイントの説明。		
	5	ATの役割、AT一般常識 1	出題傾向・重要ポイントの説明。		
	6	ATの役割、AT一般常識 2	出題傾向・重要ポイントの説明。		
	7	第2回客観式理論試験模試	出題傾向・重要ポイントの説明。		
	8	解剖・生理学 1	出題傾向・重要ポイントの説明。		
	9	解剖・生理学 2	出題傾向・重要ポイントの説明。		
	10	健康管理とスポーツ医学 1	出題傾向・重要ポイントの説明。		
	11	健康管理とスポーツ医学 2	出題傾向・重要ポイントの説明。		
	12	予防とコンディショニング 1	出題傾向・重要ポイントの説明。		
	13	予防とコンディショニング 2	出題傾向・重要ポイントの説明。		
	14	試験対策	模擬試験対策の実施。		
15	第3回客観式理論試験模試	模擬試験の実施。(50問模試)			

16	スポーツと栄養 1	出題傾向・重要ポイントの説明。
17	スポーツと栄養 2	出題傾向・重要ポイントの説明。
18	救急処置 1	出題傾向・重要ポイントの説明。
19	救急処置 2	出題傾向・重要ポイントの説明。
20	アスレティックリハビリテーション 1	出題傾向・重要ポイントの説明。
21	アスレティックリハビリテーション 2	出題傾向・重要ポイントの説明。
22	第4回客観式理論試験模試	模擬試験の実施。(50問模試)
23	競技特性 1	出題傾向・重要ポイントの説明。
24	競技特性 2	出題傾向・重要ポイントの説明。
25	スポーツ科学 1	出題傾向・重要ポイントの説明。
26	スポーツ科学 2	出題傾向・重要ポイントの説明。
27	バイオメカニクス 1	出題傾向・重要ポイントの説明。
28	バイオメカニクス 2	出題傾向・重要ポイントの説明。
29	試験対策	模擬試験対策の実施。
30	第5回客観式理論試験模試	模擬試験の実施。(50問模試)

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来／スポーツトレーナー 学科  
SMIV／AT・MTⅢ 専攻

授業科目 (科目ID)	AT対策Ⅲ 19t308/19t403		担当教員  (実務経験)	濱田 光、土岐 政義、高田 涼介  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	4年／3年・集中		必修・選択区分	選択	単位数	2単位
授業形態	講義・実習		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	AT理論試験合格を目的とする。					
到達目標	AT検定試験合格。					
テキスト・ 参考図書等	全AT専門科目テキスト					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	%	その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	100%				
履修上の 留意事項						
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	オリエンテーション	AT試験概要説明			
	2	AT模試(解剖、生理学)	試験の実施			
	3	解答	解答・解説			
	4	AT模試(ATの役割、応急処置)	試験の実施			
	5	解答	解答・解説			
	6	AT模試(アスレティックリハビリテーション)	試験の実施			
	7	解答	解答・解説			
	8	AT模試(スポーツ外傷・障害)	試験の実施			
	9	解答	解答・解説			
	10	AT模試(検査・測定と評価)	試験の実施			
	11	解答	解答・解説			
	12	AT模試(健康管理とスポーツ医学)	試験の実施			
	13	解答	解答・解説			
	14	AT模試(コンディショニング)	試験の実施			
15	解答	解答・解説				



授業科目 (科目ID)	スイミング理論 19t404 / 19t309 / 19s210		担当教員  (実務経験)	今井 由美子  有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	4年／3年／2年・通年		必修・選択区分	選択	単位数 4単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	30	時間数 60時間
授業目的	水の特性・効果等を理解し、実際の泳ぎに結びつける。水泳指導員検定に必要な専門分野の知識を学び、検定合格を目指す。				
到達目標	水泳指導員合格に向けて、理解し述べる事が出来る。				
テキスト・ 参考図書等	水泳指導教本・プリント				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	試験は筆記試験を行う。 小テスト、提出物、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	10%			
	提出物	10%			
	その他	10%			
履修上の 留意事項	各講義のテーマ毎にプリントを配布、水泳指導教本を使用し講義形式にて板書、説明を交えながら授業を展開する。、覚えることがたくさんあって大変ですが、実技のレベルアップのためにも重要な内容です。また、水泳指導をおこなう上でも必要な基本的知識なので、実際の指導に役立てられるように頑張って習得しましょう。水泳指導員を受験する学生は、必ず履修してください。また、まだ迷っているという学生も履修してください。実技にも役立ちます。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス 第1章 水泳と生活	授業の趣旨、内容説明 1. 水泳と生涯スポーツ		
	2	ガイダンス 第1章 水泳と生活	授業の趣旨、内容説明 1. 水泳と生涯スポーツ		
	3	第2章 水泳の歴史	1. 水泳の起源と発展／2. 日本の水泳・世界の水泳		
	4	第2章 水泳の歴史	1. 水泳の起源と発展／2. 日本の水泳・世界の水泳		
	5	第2章 水泳の歴史	1. 水泳の起源と発展／2. 日本の水泳・世界の水泳		
	6	第3章 水泳指導者	1. 指導者と指導の基本		
	7	第3章 水泳指導者	1. 指導者と指導の基本		
	8	第3章 水泳指導者	2. 指導の考え方と基本的原則		
	9	第6章 水泳指導法	1. 準備・整理運動／2. 技術水準別指導		
	10	第6章 水泳指導法	3. 年齢別指導		
	11	第4章 水泳の管理	1. 水泳の管理と安全指導		
	12	第4章 水泳の管理	1. 水泳の管理と安全指導		
	13	第4章 水泳の管理	1. 水泳の管理と安全指導		
	14	第4章 水泳の管理	2. 水泳と保健		
15	第4章 水泳の管理	2. 水泳と保健			

16	第4章 水泳の管理	3. プールの衛生基準
17	第4章 水泳の管理	3. プールの衛生基準
18	第5章 水泳と安全対策	1. 安全のための指導
19	第5章 水泳と安全対策	2. 救助法・心配蘇生法／3. 水泳事故
20	第5章 水泳と安全対策	2. 救助法・心配蘇生法／3. 水泳事故
21	第5章 水泳と安全対策	2. 救助法・心配蘇生法／3. 水泳事故
22	第7章 水泳の科学	1. 運動の原理／2. ストロークメカニクス
23	第7章 水泳の科学	1. 運動の原理／2. ストロークメカニクス
24	第7章 水泳の科学	1. 運動の原理／2. ストロークメカニクス
25	第9章 競技概要と審判法	1. 競泳競技
26	第9章 競技概要と審判法	2. 水球競技～6. 日本泳法
27	第9章 競技概要と審判法	7. 競技会の計画と運営
28	救助法・心肺蘇生法	実技
29	まとめ	第1章～第5章
30	まとめ	第6章～第9章

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来／スポーツトレーナー 学科  
SMIV／MTⅢ 専攻

授業科目 (科目ID)	生活習慣病の知識 19t334/19t421		担当教員  (実務経験)	田中 文恵  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 鍼灸師、柔道整復師	
対象年次・学期	4年／3年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	30	時間数	60時間
授業目的	生活習慣病の病態、危険因子、予防や治療について理解を深め、スポーツ指導者やトレーナーとして、一般層から高齢者まで幅広い対象者へ対応できるよう視野を広く持ち、知識の幅を広げる。				
到達目標	「日々の生活習慣」から病気へのリスクを予測でき、どのように対応すべきかを具体的に説明できる。				
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	試験、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	各講義のテーマ毎にプリントを配布し、講義形式にて板書、説明を交えながら授業を展開する。生活習慣病とは生活習慣が原因で発症する疾患のことで、好ましくない習慣や環境が積み重なると発症リスクが高まります。その「リスク」を理解し、対象者への指導に役立てられるよう学習して下さい。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス	授業内容説明・生活習慣病の定義		
	2	生活習慣病概要	生活習慣病の原因と起因する疾病・歴史・現状		
	3	生活習慣病概要	1)食習慣と生活習慣病		
	4	生活習慣病概要	2)運動と生活習慣病		
	5	生活習慣病概要	2)運動と生活習慣病		
	6	生活習慣病概要	3)喫煙と生活習慣病		
	7	生活習慣病概要	4)飲酒と生活習慣病		
	8	生活習慣と疾病(1)	高血圧症①		
	9	生活習慣と疾病(1)	高血圧症②		
	10	生活習慣と疾病(1)	高脂血症		
	11	生活習慣と疾病(1)	糖尿病		
	12	生活習慣と疾病(1)	慢性閉塞性肺疾患		
	13	生活習慣と疾病(1)	高尿酸血症		
	14	前期講義のまとめ			
15	前期確認問題の実施				

16	生活習慣と疾病(2)	脳血管疾患①
17	生活習慣と疾病(2)	脳血管疾患②
18	生活習慣と疾病(2)	虚血性心疾患①
19	生活習慣と疾病(2)	虚血性心疾患②
20	生活習慣と疾病(2)	悪性新生物①
21	生活習慣と疾病(2)	悪性新生物②
22	生活習慣と疾病(2)	肥満①
23	その他疾患	骨粗鬆症と認知症
24	ロコモティブシンドローム	生活習慣病と運動器症候群
25	ロコモティブシンドローム	サルコペニアとフレイル
26	ロコモティブシンドローム	ロコモ度テスト・ロコモ予防と方法
27	生活習慣病と健康運動	生活習慣病の予防と対策①
28	生活習慣病と健康運動	生活習慣病の予防と対策②
29	後期講義のまとめ	
30	後期確認問題の実施	

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来 学科  
SM 専攻

授業科目 (科目ID)	マーケティングと経営戦略 19t422		担当教員 (実務経験)	浅井 重順 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> トレーニング指導者	
対象年次・学期	4年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	施設運営の仕組みの理解。マーケティングの基礎知識の習得。				
到達目標	売れる仕組みが理解でき、改善策を提案できる。				
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	試験、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	30%			
履修上の 留意事項	プリント、板書による講義、実際の経験がない中での内容になりますが、社会に出てから実践で役に立つ内容です。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	マーケティングの基礎①	マーケティングとは何か		
	2	マーケティングの基礎②	マーケティングの3C、4C、セグメンテーション		
	3	マーケティングの基礎③	ターゲティング、ポジショニング		
	4	マーケティングの基礎④	欲求、購買プロセス、広告媒体		
	5	スポーツクラブの運営指標①	会員動向、入会、退会		
	6	スポーツクラブの運営指標②	収支構造		
	7	スポーツクラブの運営指標③	運営その他		
	8	スポーツ施設のマーケティング①	フィットネス施設の定義		
	9	スポーツ施設のマーケティング②	施設運営を成功に導く要素		
	10	スポーツ施設のマーケティング③	事業特性、経営効果、運営組織		
	11	スポーツ施設のマーケティング④	市場調査、競合分析		
	12	変化するマーケティング①	セールスプロモーション①		
	13	変化するマーケティング②	セールスプロモーション②		
	14	講義のまとめ			
15	試験振り返り				

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来 学科  
SM 専攻

授業科目 (科目ID)	プログラム研究と開発 19t423		担当教員 (実務経験)	高田 涼介 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> アスレティックトレーナー、鍼灸師	
対象年次・学期	4年・前期	必修・選択区分	集中	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数(1回180分)	15	時間数	60時間
授業目的	一般の方を対象とした運動プログラムを作成し、内容や効果を説明できる。				
到達目標	一般の方を対象とした運動教室を開催する準備ができる。				
テキスト・ 参考図書等	プリント				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	提出物、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	50%			
	その他	50%			
履修上の 留意事項	講義、及びプレゼンテーションを中心に授業を展開していきます。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	科目の説明、目標地点の確認		
	2	トレーニングプログラム作成について①	筋線維の収縮様式、トレーニング負荷による効果の違い		
	3	トレーニングプログラム作成について②	運動強度の設定や種目の負荷の変化の設定		
	4	高齢者を対象としたW-UP、C-DOWNの方法①	イスに座って行うW-UP、C-DOWNと声の掛け方		
	5	高齢者を対象としたW-UP、C-DOWNの方法②	立位でのW-UP、C-DOWNと声の掛け方		
	6	高齢者を対象としたトレーニングプログラムの作成①	バランスボール・ストレッチボールを用いたプログラムの作成		
	7	高齢者を対象としたトレーニングプログラムの作成②	ラダー・ミニハードルを用いたプログラムの作成		
	8	心血管疾患を持つ高齢者を対象としたトレーニング	運動強度の設定と禁忌、運動実施の注意点について		
	9	糖尿病を持つ高齢者を対象としたトレーニング	運動強度の設定と禁忌、運動実施の注意点について		
	10	高血圧を持つ高齢者を対象としたトレーニング	運動強度の設定と禁忌、運動実施の注意点について		
	11	ポスター作製①	エクセル・ワードを用いたポスターの作成		
	12	ポスター作製②	パワーポイントを用いたポスターの作成		
	13	運動教室実施要綱作成①	高齢者を対象とした運動プログラムの作成		
	14	運動教室実施要綱作成②	ケガや疾病により運動に制限がある場合の負荷の変化		
15	運動教室実施要綱作成③	実施要綱・ポスター完成			

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来／スポーツトレーナー 学科  
SMIV／MTⅢ 専攻

授業科目 (科目ID)	介護予防運動 19t335/19t424	担当教員 (実務経験)	菊池 諒 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> トレーニング指導者		
対象年次・学期	4年／3年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	4単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	30	時間数	60時間
授業目的	高齢者の方々への「QOL」の向上をサポートできるような理論と実技を学びます。				
到達目標	高齢者の方々への「QOL」をサポートするための、体力測定・トレーニング指導が実施できること。				
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	試験、レポート、提出物、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	10%			
	小テスト	9%			
	提出物	10%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	配布する資料をもとに、板書、実技、口頭質問を中心に総合的に展開する。「高齢者」の定義は「65歳以上」となっており、さらに日本においては人口の4分の1以上の方々該当する「高齢化社会」となっております。「平均寿命」の延伸だけではなく「健康寿命」の延伸のサポートができるよう「知識と技術」を身につけましょう。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業内容説明・諸注意・意識調査・高齢化社会の現状等		
	2	介護予防概論①	健康日本21(第二次)、介護予防の考え方		
	3	介護予防概論②	介護予防の推進・介護予防実践への方策		
	4	介護予防と運動①	高齢社会と介護予防・高齢者の介護予防のための運動等		
	5	介護予防と運動②	高齢者の健康づくり運動・介護予防運動のねらい等		
	6	高齢者の体力	体力と年齢変化・形態的变化と筋力等		
	7	各種体カテスト	高齢者におけるテスト方法の確認		
	8	高齢者筋カトレーニングの進め方①	従事者の心構え、トレーニングの原理・原則の確認		
	9	高齢者筋カトレーニングの進め方②	トレーニングにおける期分け		
	10	高齢者筋カトレーニングの進め方③	理学的個別プログラム		
	11	高齢者向けトレーニングの実際①	セラバンドの取扱い方法・ストレッチング		
	12	高齢者向けトレーニングの実際②	セラバンドを用いてのトレーニング①		
	13	高齢者向けトレーニングの実際③	セラバンドを用いてのトレーニング②		
	14	高齢者向けトレーニングの実際④	セラバンドを用いてのトレーニング③		
15	前期授業まとめ	前期試験対策			

16	高齢者向けトレーニング(バランス系①)	バランスボールを用いてのトレーニング①
17	高齢者向けトレーニング(バランス系②)	バランスボールを用いてのトレーニング②
18	高齢者向けトレーニング(歩行①)	ウォーキングの効果について
19	高齢者向けトレーニング(歩行②)	ラダーを用いてのトレーニング①
20	高齢者向けトレーニング(歩行③)	ラダーを用いてのトレーニング②
21	高齢者向けトレーニングプログラムの立案①	高齢者向けグループトレーニングの作成①
22	高齢者向けトレーニングプログラムの立案②	高齢者向けグループトレーニングの作成②
23	高齢者向けトレーニングプログラムの実践①	グループで作成したプログラムの実践①
24	高齢者向けトレーニングプログラムの実践②	グループで作成したプログラムの実践②
25	高齢者向けトレーニングプログラムの実践③	グループで作成したプログラムの実践③
26	生活習慣病の予防①	高血圧に対する運動の効果
27	生活習慣病の予防②	脂質異常症に対する運動の効果
28	生活習慣病の予防③	糖尿病に対する運動の効果
29	生活習慣病の予防④	血管系疾患に対する運動の効果
30	後期授業まとめ	後期試験対策

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来 学科  
SM 専攻

授業科目 (科目ID)	スポーツ施設における人材と育成 19t425	担当教員 (実務経験)	石井 克 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> フリーライター		
対象年次・学期	4年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	21世紀における日本のスポーツ政策および産業化の動向を踏まえて、スポーツ施設の現状と従事者の役割について理解する。				
到達目標	主として参加型のスポーツマネジメントについて学び、スポーツ施設従事者に求められる役割について自ら述べるようになる。				
テキスト・ 参考図書等	【参考文献】 柳沢和雄・清水紀宏・中西純司編著(2017)『よくわかる スポーツマネジメント』, ミネルヴァ書房 原田宗彦編著(2015)『スポーツ産業論 第6版』, 杏林書院				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	評価は、試験点(60%)、提出物(15%)、その他(25%)の計100%とする。 ・試験点は、筆記試験による成績 ・提出物は、講義時に配布するリフレクションペーパーの提出 (15回×1点) ・その他は、ニュース発表および調査発表等を総合的に評価し担当所見とする。		
	レポート	0%			
	小テスト	0%			
	提出物	15%			
	その他	25%			
履修上の 留意事項	講義形式を基本とするが、状況に応じて適宜、ディスカッション・発見学習等のアクティブ・ラーニングを活用し、スポーツ施設従事者に求められる人材像を掘り下げていく。そのほか、受講者によるニュース発表を通して、コミュニケーション力を養ってもらいたいと考えている。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	講義の進め方・試験方法等のガイダンス		
	2	地域におけるスポーツ	地域スポーツとコミュニティ		
	3	スポーツ施設の特徴と従事者の役割①	公共スポーツ施設の整備とマネジメント		
	4	スポーツ施設の特徴と従事者の役割②	公共スポーツ施設の経営形態		
	5	スポーツ施設の特徴と従事者の役割③	総合型地域スポーツクラブの育成		
	6	スポーツ施設の特徴と従事者の役割④	民間営利(商業)スポーツ施設の種類とマネジメントの特性		
	7	スポーツ施設の特徴と従事者の役割⑤	民間営利スポーツ施設の営業システム		
	8	スポーツ施設の特徴と従事者の役割⑥	民間営利スポーツ施設のマーケティング		
	9	スポーツ施設の特徴と従事者の役割⑦	スポーツサービスとクオリティマネジメント		
	10	グループワーク・発見学習・発表	北海道におけるスポーツ施設の現状分析		
	11	スポーツ施設従事者のマネジメントスキル①	顧客管理とホスピタリティ・マネジメント		
	12	スポーツ施設従事者のマネジメントスキル②	日常生活圏域施設の変遷とマネジメント課題		
	13	スポーツ施設従事者のマネジメントスキル③	リゾート型施設のマネジメント特性と課題		
	14	スポーツ施設従事者のマネジメントスキル④	商業スポーツ施設のイノベーション・マネジメント		
15	まとめ	これまでの講義の整理と復習			

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来 学科  
SM 専攻

授業科目 (科目ID)	英会話 19t426		担当教員  (実務経験)	深田 由佳里  有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 英会話講師	
	対象年次・学期	4年・通年	必修・選択区分	必修	単位数 4単位
授業形態	実技	授業回数(1回90分)	30	時間数	60時間
授業目的	英会話を通じて、コミュニケーション能力を養う。				
到達目標	英語で自分の意見や考えを述べるができる。				
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50%	試験、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	50%			
履修上の 留意事項	テキスト、プリントを使用し話すことを主とした授業。数回視聴覚機器等を使用する場合もある。英会話はむずかしくない。楽しみながら触れていきたいと思いません。Have fun Lesson!!				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	基本の英会話	出会った時の挨拶、初対面の人と話す		
	2	基本の英会話	人を紹介する、別れる時の挨拶		
	3	基本の英会話	お礼を言う、お詫びをする		
	4	基本の英会話	依頼する、許可を求める		
	5	基本の英会話	賛成・同意する、反対・否定する		
	6	基本の英会話	聞き返す、相づちを打つ		
	7	日常会話フレーズ	話しかける、お祝いを言う		
	8	日常会話フレーズ	励ます、なぐさめる		
	9	日常会話フレーズ	意見を言う、苦情を言う		
	10	日常会話フレーズ	あいまいに答える、困った時		
	11	気持ちを表現する	嬉しい、楽しい、腹立たしい		
	12	気持ちを表現する	感動する、驚く		
	13	場面別: レストランで	お店に入る、注文する		
	14	Review			
15	前期試験				

16	場面別:仲の良い人と	人を招待する、訪問する、もてなす
17	場面別:ショッピング	品物を選ぶ、購入する
18	場面別:電話	電話をかける、受ける、取り次ぐ
19	場面別:病気	病気になったら、病院へ行く
20	海外旅行:空港	空港で、飛行機の中で
21	海外旅行:ホテル①	チェックイン、サービスを利用
22	海外旅行:ホテル①	要望を伝える
23	海外旅行:街で①	道をたずねる、交通機関
24	海外旅行:街で①	観光案内所で、ツアーに参加
25	海外旅行:街で①	観光地で、エンターテインメント
26	海外旅行:街で①	トラブルに遭ったら
27	about Japan	日本について
28	about Japan	日本について
29	Review	
30	後期試験	

2019年度

北海道スポーツ専門学校

スポーツ未来 学科  
SM 専攻

授業科目 (科目ID)	ゼミ 19t427	担当教員 (実務経験)	菊池 諒 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> トレーニング指導者		
対象年次・学期	4年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義実習	授業回数(1回90分)	20	時間数	30時間
授業目的	学生自ら問いを立て、科学的手法を用いて問いに対する一定の答えを導く力を養うこと。				
到達目標	研究内容についてまとめ、学会および研究会で発表すること。				
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	提出物、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
	その他	80%			
履修上の 留意事項	【実習】教室、トレーニングルーム、図書室、体育館を使用して文献検索、実験統計処理、スライド作成等を行う。【講義】板書、プロジェクターを使用する。本授業は、教員からの一方的な講義ではなく、学生自身が自ら問いを立てて研究を進めていきます。何よりも“自主性”を強く求めます				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス	到達目標、研究とは		
	2	測定機材の体験	PUSH、フィットロダインの体験		
	3	データの収集	フィールド測定の実験		
	4	論文の読み方について	論文の検索方法、読み方		
	5	論文レビュー①	論文をまとめて発表①		
	6	論文レビュー②	論文をまとめて発表②		
	7	データを活用する準備①	エクセルを使った統計処理		
	8	データを活用する準備②	グラフの作成		
	9	研究テーマの検討①	先行研究の検討等①		
	10	研究テーマの検討②	先行研究の検討等②		
	11	研究デザインの検討①	実験方法、データ収集方法の検討		
	12	研究デザインの検討②	具体的な実験日時の決定		
	13	研究指導①	進捗状況をチェック①		
	14	研究指導②	進捗状況をチェック②		
15	プレゼンテーションの準備	パワーポイントでの資料づくり			

16	中間発表	現時点での進捗を発表
17	研究指導①	データ・発表スライドの作成
18	研究指導②	データ・発表スライドの見直し
19	発表練習①	発表のリハーサル①
20	発表練習②	発表のリハーサル②